

あるかぽーと・唐戸エリアマスタープランデザイン会議

第18回 議事概要

日時	2025年3月19日（水） 14:30～17:00
場所	唐戸市場 2階会議室
参加者（委員）	HBP・KAM 共同事業体： 吉田、木村隼、木村大、清原、安本、有賀 専門家：熊谷、榎本、大橋、長町 地域事業者：郷田、阿部、原田、立川 事務局：北島副市長（事務局長） エリアビジョン推進室 内田、田中、平山、村上

1. 火の山再編整備計画の進捗状況について（報告）

下関市都市計画課より資料に基づき説明の上、議論

- 開業に向けた PR において連携して実施できると良いと思われるので、お互いに PR 計画を情報共有していけると良い。
- 駐車場等について、唐戸エリアの事業者にも旅行会社から問い合わせが想定されるが、その際の対応窓口はいたん市で対応する。

2. モバイルユニットを活用した社会実験について

デザイン会議木村大委員より資料に基づき説明の上、議論

- 火の山で使用していたゴンドラの使い道に関する協議を行っている。まだコンセプトベースであるが、方向性としては活用していく方向で調整していきたい。海響館に関しては、今後拡張工事もあり得るので、支障がないように調整が必要。
- 全体として、これまで実施してきた事項と新規事項があるので、これまでの実績を踏まえて継続するもの・改善するもの・新規に取り組むもの、がわかるように整理してほしい。
- フライ＆クルーズの取組等も進んでいる中、船着き場のバリューアップが重要。モニュメントやフラッグなど秋の実証も含めて検討していくべき。
- 公共空間への出店の際には、既存の団体との調整も念頭に置く必要がある。

3. 令和7年春実施の「からと市場社会実験」について（進捗報告）

デザイン会議吉田委員より資料に基づき説明の上、議論

- 業者との意思疎通をしっかりと行っていく。まだ温度差が大きいですが、個別に説明に伺うなども含めて進めていく。馬関街のときも色々な声があったが、今となっては重要な資源になっている。
- 業者と言っても業態によって利害が異なるので、バランスは考えていくべき。ターゲットによっても影響が違ってくる。
- 市場自体の概念を転換して、新しい顧客を獲得することを考える必要がある。市民にとって「買い物に行ったら良い場所なんだ」という認識をつくっていくことがその端緒になるのではないかと思う。

- 利便性だけなら大手の小売りに敵わないので、どれだけ美味しいのか、というところを伝えることが重要。
- 安さでは勝負しないということが大事。
- コンテンツは足下にあるので、それをしっかり身近に感じられる、そのための LINE であり、コミュニケーションを通じて、「貴方から魚を買いたい」という状態にどう持って行くかが重要。

4. 特別調査委員会調査結果に基づく提言について

下関市イノベ課より資料に基づき説明の上、議論

- 次年度は、委員会にも伝わりやすいよう議論の進め方を工夫していく必要がある。

5. 第4回推進会議に向けて

下関市イノベ課より資料に基づき説明（特に質疑なし）

6. 全体振り返りと来年度に向けて

下関市イノベ課より資料に基づき説明の上、議論

- ロードマップに関しては各関係者で確認をして必要な修正を行っていく。
- マスタープランについて、議論に関わっていない人に土台が浸透していない。現場のスタッフなどにも伝わっていないのが現状なので、全体のコンセプトやなんのために行うのか、を改めて伝えていくことを考えていくべき。

以上